

# 町の子どもたちの学力・学習状況について

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果から

平成30年4月に実施した「全国学力・学習状況調査」の町立小・中学校の結果をまとめました。この調査は、全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に、国語、算数・数学に、本年度は理科を加えた3教科で実施されました。出題範囲は前学年までの指導事項を原則とし、国語、算数・数学については、主として知識に関する(A)問題と、主として活用に関する(B)問題が出題されました。また、生活習慣や学習意欲、家庭学習などに関する質問紙調査も行われました。

【問い合わせ】教育課 学校教育係 ☎(83)7023

## 【学力調査】

### ●小学校6年生

- ・国や県の平均正答率と同程度
- …国語A、算数B、理科
- ・国や県の平均正答率より高い傾向
- …国語B、算数A

**国語A** 文章全体の内容的確につかむことや、目的に応じて必要な情報を捉えること、漢字を文の中で正しく使うこととは良好でした。相手や場面に応じて適切に敬語を使うことには課題があります。

**国語B** 話し合いでの司会の役割などを捉えることや、目的や意図に応じて内容を整理して書いたり、他と比較しながら書いたりすることは良好でした。

**算数A** 全14問中8問で平均正答率より高い傾向にありました。円周率の意味や直径の

長さや円周の長さの関係については、10ポイント以上高い正答率でした。

**算数B** 与えられた情報とグラフを関連付けて捉え、解釈することは良好でしたが、条件に合った解答を導き出すことに課題があります。

**理科** 全16問中8問で平均正答率より高い傾向にありました。特に、科学的な言葉や概念の理解などについては10ポイント以上高い正答率でした。

### ●中学校3年生

- ・国や県の平均正答率と同程度
- …国語A・B
- ・国や県の平均正答率より低い傾向
- …数学A・B、理科

**国語A** 漢字の読み・書きについては、平均正答率と同程度に

ありました。一方で、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに読み

替えることには課題がありました。

**国語B** あらすじを捉え、相手的に伝わるように書くことは、平均正答率より高い傾向にありました。一方で、登場人物の言動の意味を読み取ることに課題があります。

**数学A** 簡単な文字式の計算や比例式を解くこと、数直線上における負の整数を読み取ることは良好でした。一方、絶対値の意味の理解に課題があります。

**数学B** グラフから必要な情報を読み取り、数学的に解釈することは良好でした。一方で、複雑な情報を分類整理し、数学的に捉えることには課題があります。

**理科** 台風の進路についてのシミュレーション結果を考察して改善するなどの解答を記述する問題は、平均正答率と同程度にありました。一方で、知識を問う問題については、全体的に課題がありました。

## 【質問紙調査】

### (全国や県の割合との比較)

#### 小学校6年生

##### ●生活習慣

「早ね・早おき・朝ご飯・朝うんち」を推進している生活習慣ですが、毎日同じ時刻に寝ている割合と同じ時刻に起きている割合は全国や県と同程度でした。

##### ●コミュニケーション能力

自分の考えを発表するとき、うまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫できる割合は、全国や県より高い傾向にありました。

##### ●家庭学習・家庭生活

家で、自分で計画的に勉強している割合や、1日あたり1時間以上学習している割合が全国や県よりも10ポイント以上高い傾向にありました。

さらに、家の人と学校での出来事について話をする割合や、少ない時間でも読書をする児童の割合も、高い傾向にありました。

##### ●自己肯定感

自分には、よいところがあると思っている割合や将来の夢や目標を持っている割合が全国や県よりも高い傾向にありました。また、全児童がいじめを、どんな理由があってもいけないことだと考えています。

##### ●地域参加

地域の行事へ参加する割合

が全国や県に比べて高い傾向にありました。しかし、地域で起こっている問題や出来事に関心は高いものの、地域や社会をよくするために何をすべきか考えている割合は低い傾向です。

#### 中学校3年生

##### ●生活習慣

生活習慣に関して、毎日同時刻に就寝する割合や朝食を毎日摂る割合は全国や県と比べて低い傾向にあります。睡眠時間と食欲の関連性も含めて改善が必要です。

##### ●コミュニケーション能力

友人同士の話し合いを通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできる割合が、全国や県より低い傾向にあり、これを改善することが今後の課題です。

##### ●家庭学習・家庭生活

昨年度と同様、1日に1時間以上学習している割合が全国や県よりも低い傾向にあります。学校での出来事について家

族と話をする割合は7割を超え、家庭でのコミュニケーションを大切にしている姿が伺えます。授業以外に1日1時間以上の読書をしている割合は、全国や県と同程度である一方で、全くしないと回答した割合が、約4割でした。家庭学習や家庭での読書に、これまで以上に取り組む必要があります。

##### ●自己肯定感

自分によいところがあると考える割合や、将来の夢や目標をもっているという割合は、全国や県と同程度でした。昨年度まで、この項目は全国や県と比べて低い傾向にありましたが、道徳教育の充実などにより、改善が図られたことが考えられます。

##### ●地域参加

昨年度と同様、地域の行事への参加の割合が全国や県に比べて高い傾向にありました。また、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があると答えている生徒の割合も高い傾向にありました。

## 【今回の調査結果から】

- ◎各学校においても調査結果について分析し、それぞれの強みを生かした実践や課題を克服する取り組みを、教師間で共有していきます。
- ◎児童・生徒に学び続ける気持ちを育てよう、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいきます。
- ◎社会に開かれた教育課程「をめぐり、学校が地域とより一層連携を深め、地域と共に歩んでいくことを推進していきます。」